

## 前期終了

本年度の前期もついに終了となりました。節目の時期と言えます。振り向けばあっという間に月日が過ぎて行く感覚があります。このペースで残りの半分が訪れると考えれば、いかに残りがわずかであるのかが想像できると思います。

わずかではありますが秋休みという期間もあり、若干の心の余裕があると思います。この機会に、自分の前期の取り組みを振り返り、成長したことや到達しきれなかったことを洗い出してもらいたいと思います。

「節目」とは、物事の区切りを表す言葉です。語源として竹の節目からきていると言われます。竹は空洞であり、そのままでは大きく伸びることができないそうです。そこで節があることにより、さらに高く成長できるのだとか。前期と後期の時期的な節目を通して、どのようにこれからの成長を作っていくのかを考える必要があります。そのためには、自らの内省を深め、新たな自分の行動基準を作っていくことが重要だと思います。勉強も大切ですし、休養期間として生かしたいという気持ちもあるでしょうが、心のどこかに、この節目を新たなスタートラインとする気持ちを持っていてほしいと思います。

## 「やるしかない」

説教的なタイトルかと思ったかもしれませんが、そうではありません。この言葉は、先日開催された懇話会学年行事の「小さな運動会」の中で、生徒の皆さんの中から発せられた言葉です。場面は、男子の集団行動の前。ほとんどの男子生徒が、やるとは思っていなかったらしく、「本当にやるのか?」「人少くない?」など、不安の声がちらほら。音頭取りの山口くんは「笛がない!」と困った様子。でも、時間は刻々と迫り、いよいよ男子集団行動の出番が近づきます。そんな中、発せられた言葉が「やるしかない」でした。この言葉が発せられたことが、この学年の成長のひとつを表していると思いました。「無理だ!」「できない!」「なんでやらなければならないのか!」と文句をいうことは簡単です。その結果やらなかったとしても、おそらく何も罰則があるわけではない。そんな状況の中で「やるしかない」は、決意の言葉であり、心をポジティブな状態に導く言葉であったでしょう。結果がどうあれ「やるしかない」という決意で向かっ



女子の前で「やるしかない」演技を披露する男子

たことは、自分の中にやりきった感情をもたらすこととなります。その感情は、次の困難な場面でも意欲につながるでしょう。「やるしかない」という決意を持った瞬間に、実は成長に導かれているのです。これから先、決意を迫られる場面は山ほど訪れます。その時に、この度の「やるしかない」という言葉は、決意を促す土台を作れたらと思います。

とりあえず、これから進路等でプレッシャーのかかる場面が近づいてきます。ぜひ「やるしかない」の精神で乗り切ってほしいものです。